

地方移住や地方企業への関心についてのアンケート調査

—東京在住 20 代の 5 人に 1 人、コロナ禍で地方移住への関心高める—

大正大学地域構想研究所は、コロナ禍の影響による地方移住や地方企業への関心の変化について把握するため、インターネット調査を実施しました。その結果、東京在住の 20 代の 5 人に 1 人が地方移住への関心を高めるなど、コロナ禍を受けて地方移住や地方企業への関心が若い世代を中心に高まっていることが明らかになりました。こうした地方移住や地方企業への関心の高まりを地方活性化に活かしていく必要があると考えます。

大正大学地域構想研究所では、地域と連携し、社会に貢献するため、様々な取組を実施しています。本調査で確認できた、地方移住や地方企業への関心の高まりを地方創生につなげるための研究や取組をさらに進めて参りたいと考えています。

【調査結果概要】

- 東京在住者を対象にコロナ禍前に比べ、地方移住^(注1)(二拠点居住^(注2)を含む)に対する関心の度合いが高まった人の割合を調査したところ、全体の 12.6%となった。男女別の傾向をみると、女性(12.8%)の方が男性(12.4%)より若干多く、年代別の傾向をみると、20代が 18.0%と約 5 人に 1 人となり、30代(10.4%)、40代(9.4%)に比べ多かった。

(注1) 本アンケート調査での「地方移住」は、現在の住居を地方（大都市部（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府）以外を想定）に移すことを指すこととしている。

(注2) 本アンケート調査での「二拠点居住」は、地方移住に準ずるような、現在の住居を持ちながら生活の本拠を地方に移すことを指すこととしている。なお、「二拠点居住」に単身赴任は含めていない。

- コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人の関心が高まった理由をみると、「テレワークのような場所を問わない働き方が普及する中、働き方を変えたいと考えるようになったから」(40.3%)、「暮らし方を変えたいと考えるようになったから」(31.4%)が多かった。
- コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人が、「地方移住に関心がある理由」のうち主な理由の 1 位に挙げたものをみると、「豊かな自然環境の下で暮らしたいから」(27.7%)と「通勤などが大変な都会の生活から離れてゆったりと暮らしたいから」(26.4%)が約 4 分の 1 ずつで多かった。

- コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人が、「地方移住するとした場合の移住先の条件」のうち重視する条件の1位に挙げたものをみると、「首都圏と簡単に行き来できる」(20.1%)が最も多く、「買い物等日常生活が便利」(18.9%)、「自分の出身地」(15.7%)が続いた。
- コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人の地方移住の実現希望時期は、「10年後」(23.3%)が最多で、次いで「5年後」(21.4%)、「定年を迎えたら」(20.8%)が多かった。
- コロナ禍前より地方移住に関心が高まった人は、地方移住に関心がない人に比べ、地方訪問の機会や地方での経験が豊富であった。具体的には、コロナ禍前より地方移住に関心が高まった人と地方移住に関心がない人の回答割合は、「地方に毎年何回か帰省する」(各 29.6%、17.9%)、「地方に毎年何回か出張する」(各 17.6%、6.3%)、「地方に毎年何回か観光旅行に行く」(各 29.6%、13.7%)、「出身地が地方である」(各 24.5%、15.7%)となった。
- コロナ禍前より地方企業への就職・転職への関心が高まった人の割合は全体の9.4%となった。男女別の傾向をみると、女性(9.5%)の方が男性(9.2%)より若干多く、年代別の傾向をみると、20代(12.7%)が、30代(7.3%)や40代(8.0%)に比べ多かった。

【調査概要】

- ・調査目的:コロナ禍の影響による地方移住や地方企業への関心の変化について把握すること
- ・調査対象:東京都在住者 20代~40代
- ・回収サンプル数:1262人(男性630人、女性632人)
- ・調査時期:2020年11月
- ・調査方法:インターネット調査(NTTコムオンライン・マーケティング・ソリューション(株)委託)

【本調査についての照会先】

大正大学地域構想研究所プロジェクトつなぐ事務局
塚崎裕子・木村文哉
(電話) 03(5944)5482
(ファックス) 03(5934)3055

【調査結果】

1. コロナ禍による地方移住への関心の変化

(1) 現在とコロナ禍前の地方移住への関心

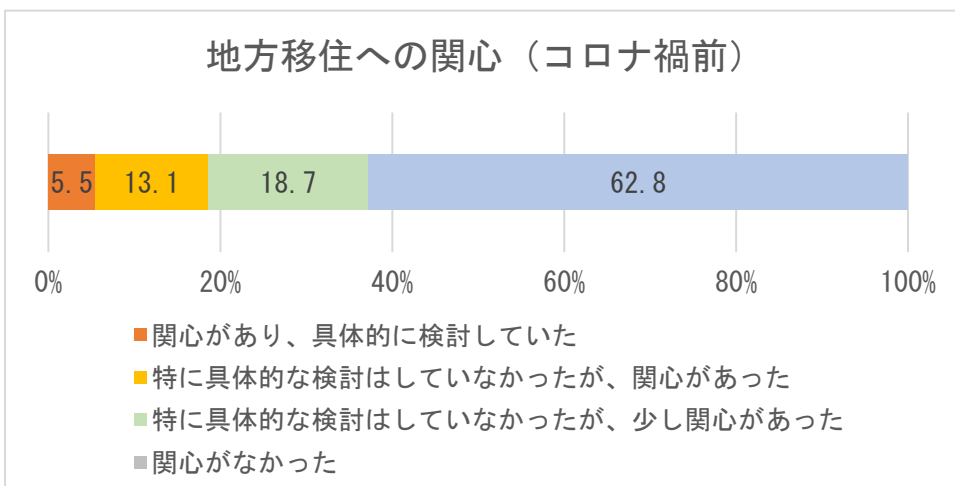
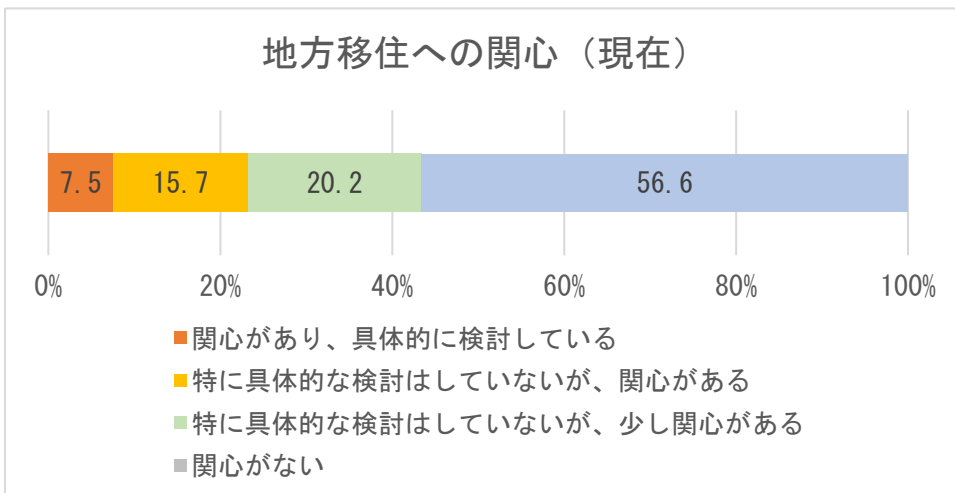
東京都に住む人に「あなたは、地方移住^(注1)（二拠点居住^(注2)を含む）に関心がありますか」と聞いたところ、「関心があり、具体的に検討している」が7.5%、「特に具体的な検討はしていないが、関心がある」が15.7%、「特に具体的な検討はしていないが、少し関心がある」が20.2%、「関心がない」が56.6%となった。

「新型コロナウイルス感染症拡大前のあなたの地方移住（二拠点居住を含む）への関心はどうでした」との問いに対しては、「関心があり、具体的に検討していた」が5.5%、「特に具体的な検討はしていなかったが、関心があった」が13.1%、「特に具体的な検討はしていなかったが、少し関心があった」が18.7%、「関心がない」が62.8%となった。

コロナ禍の前と現在を比べると、地方移住への関心がある割合（「関心があり、具体的に検討している」、「特に具体的な検討はしていないが、関心がある」、「特に具体的な検討はしていないが、少し関心がある」の割合の和）は、37.3%から43.4%に6.1%ポイント増加している。

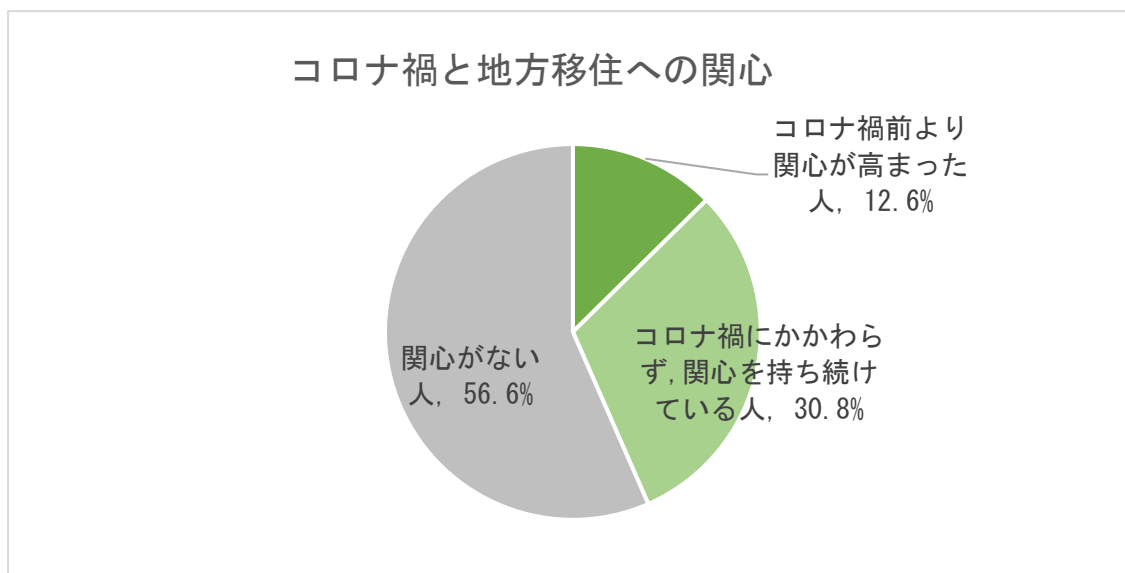
(注1) 本アンケート調査での「地方移住」は、現在の住居を地方（大都市部（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府）以外を想定）に移すことを指すこととしている。

(注2) 本アンケート調査での「二拠点居住」は、地方移住に準ずるような、現在の住居を持ちながら生活の本拠を地方に移すことを指すこととしている。なお、「二拠点居住」に単身赴任は含めていない。



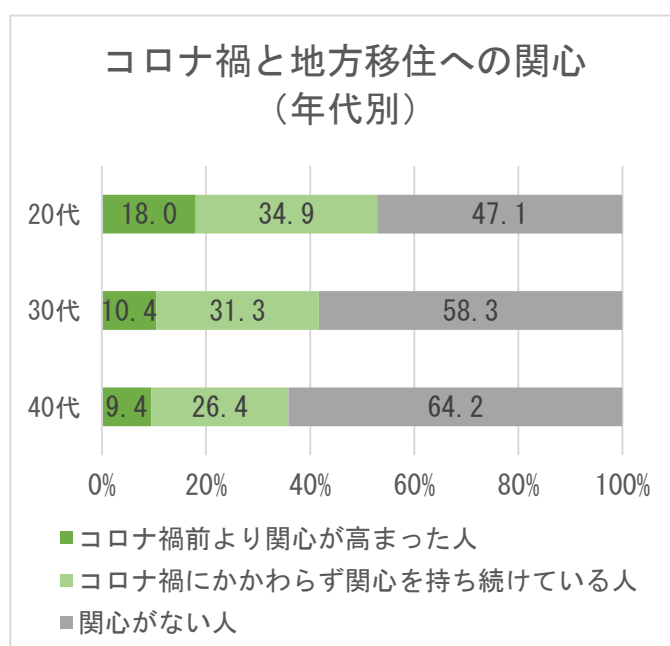
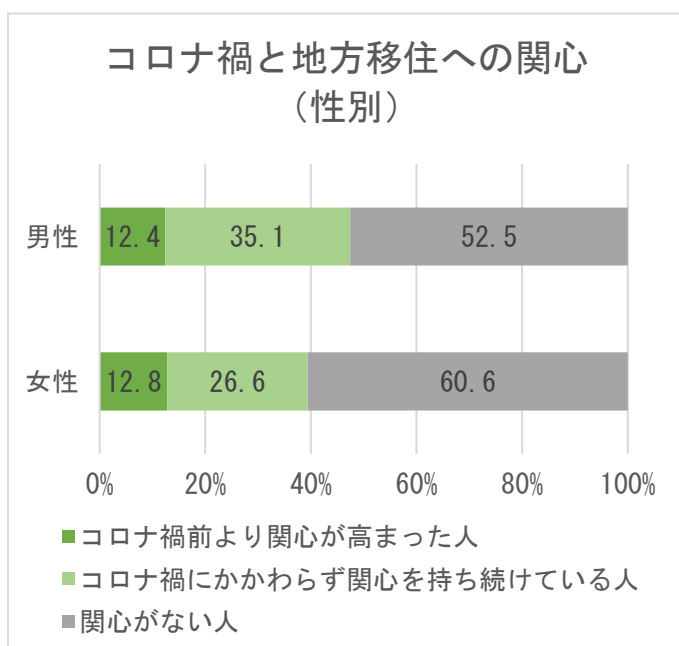
(2) コロナ禍と地方移住への関心

コロナ禍前に比べ、地方移住に対する関心の度合いが高まった人（例えば、コロナ禍前は「特に具体的な検討はしてなかったが、関心があった」が、現在は「関心があり、具体的に検討している」になった人）の割合は12.6%、コロナ禍にかかわらず地方移住に関心を持ち続けている人は30.8%、地方移住に関心がない人は56.6%であった。



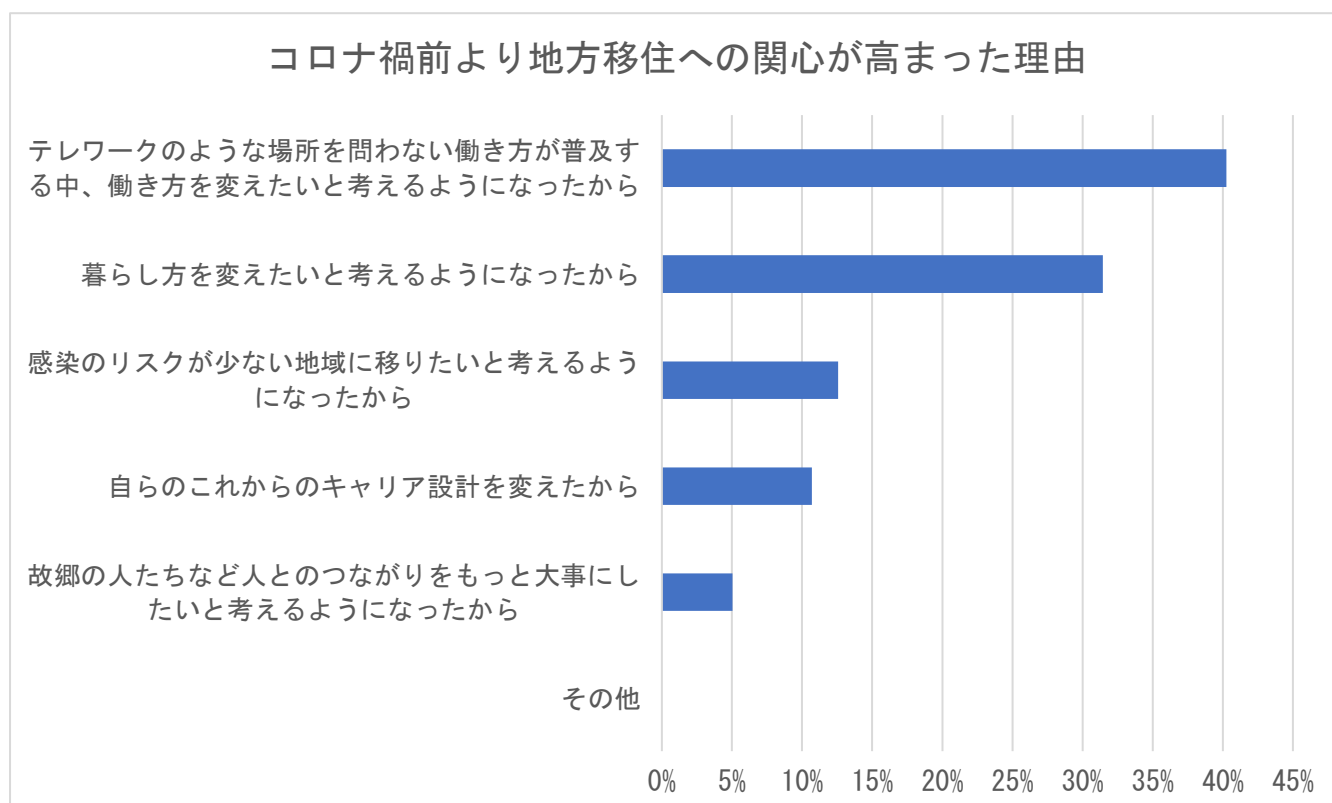
男女別の傾向をみると、コロナ禍前に比べ、地方移住に対する関心の度合いが高まった人の割合は、女性（12.8%）の方が男性（12.4%）より若干多かったのに対し、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人の割合は男性（35.1%）の方が女性（26.6%）より多かった。

年代別の傾向をみると、コロナ禍前に比べ、地方移住に対する関心の度合いが高まった人の割合は、20代（18.0%）が、30代（10.4%）、40代（9.4%）に比べ多かった。



(3) コロナ禍前より地方移住への関心が高まった理由

コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人の関心が高まった理由をみると、「テレワークのような場所を問わない働き方が普及する中、働き方を変えたいと考えるようになったから」が40.3%、「暮らし方を変えたいと考えるようになったから」が31.4%、「感染のリスクが少ない地域に移りたいと考えるようになったから」12.6%、「自らのこれからのキャリア設計を変えたから」10.7%、「故郷の人たちなど人とのつながりをもっと大事にしたいと考えるようになったから」が5.0%となった。

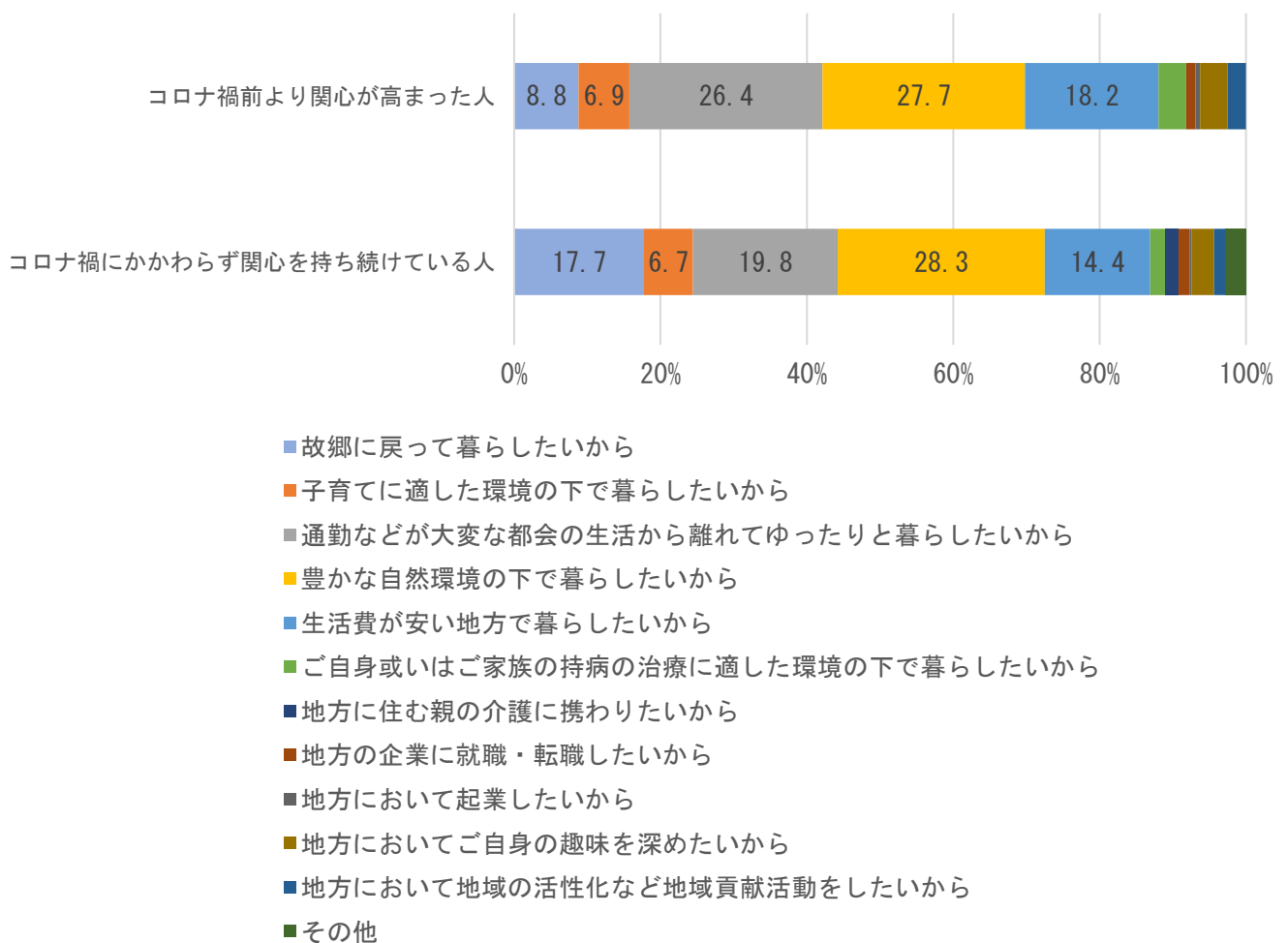


2. 地方移住に関心がある理由・移住先の条件・移住実現希望時期

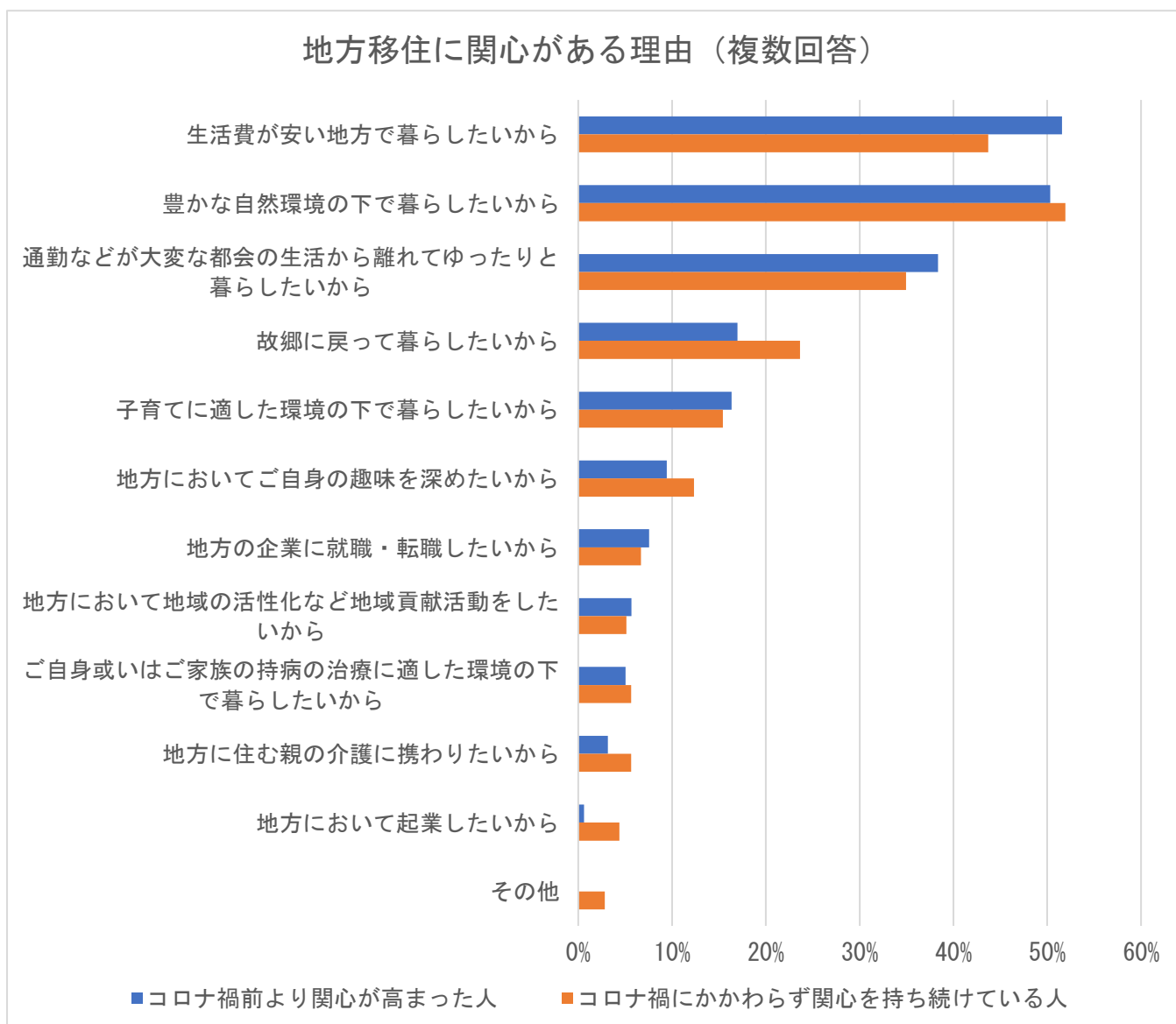
(1) 地方移住に関心がある理由

「地方移住（二拠点居住を含む）に関心がある理由」のうち、主な理由の1位に挙げられたものをみると、コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人は、「豊かな自然環境の下で暮らしたいから」（27.7%）と「通勤などが大変な都会の生活から離れてゆったりと暮らしたいから」（26.4%）を挙げた人が約4分の1ずつで多かった。それに対し、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人は、「豊かな自然環境の下で暮らしたいから」（28.3%）が最多で、「通勤などが大変な都会の生活から離れてゆったりと暮らしたいから」（19.8%）、「故郷に戻って暮らしたいから」（17.7%）が続き、「故郷に戻って暮らしたいから」を地方移住に関心がある理由の1位に挙げる人も少なくなかった。

地方移住に関心がある理由（主な理由1位）

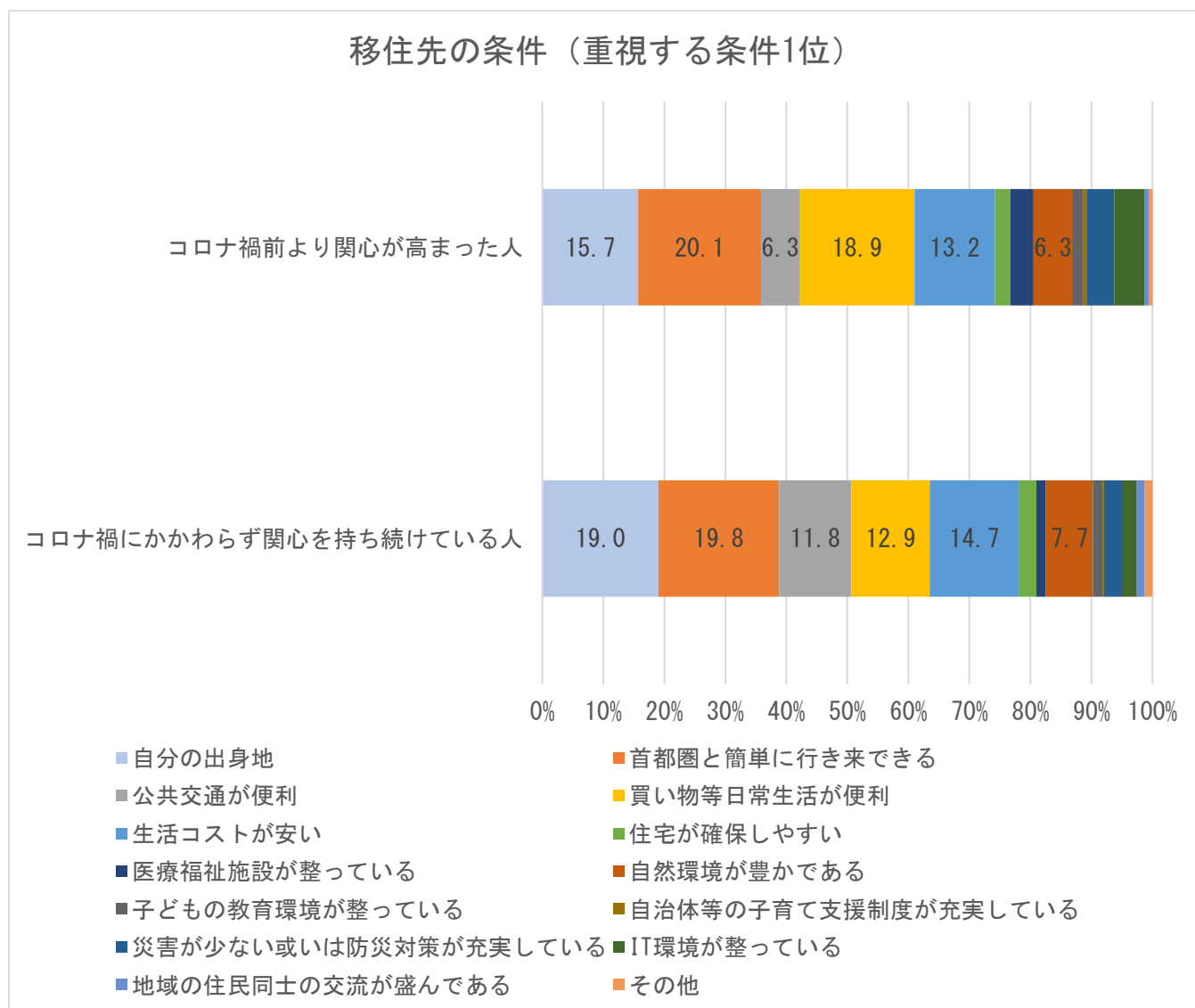


「地方移住（二拠点居住を含む）に関心がある理由」についての複数回答では、コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人では、「生活費が安い地方で暮らしたいから」（51.6%）が最多、「豊かな自然環境の下で暮らしたいから」（50.3%）、「通勤などが大変な都会の生活から離れてゆったりと暮らしたいから」（38.4%）が続いたのに対し、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人では、「豊かな自然環境の下で暮らしたいから」（51.9%）が最多、「生活費が安い地方で暮らしたいから」（43.7%）「通勤などが大変な都会の生活から離れてゆったりと暮らしたいから」（35.0%）が続いた。

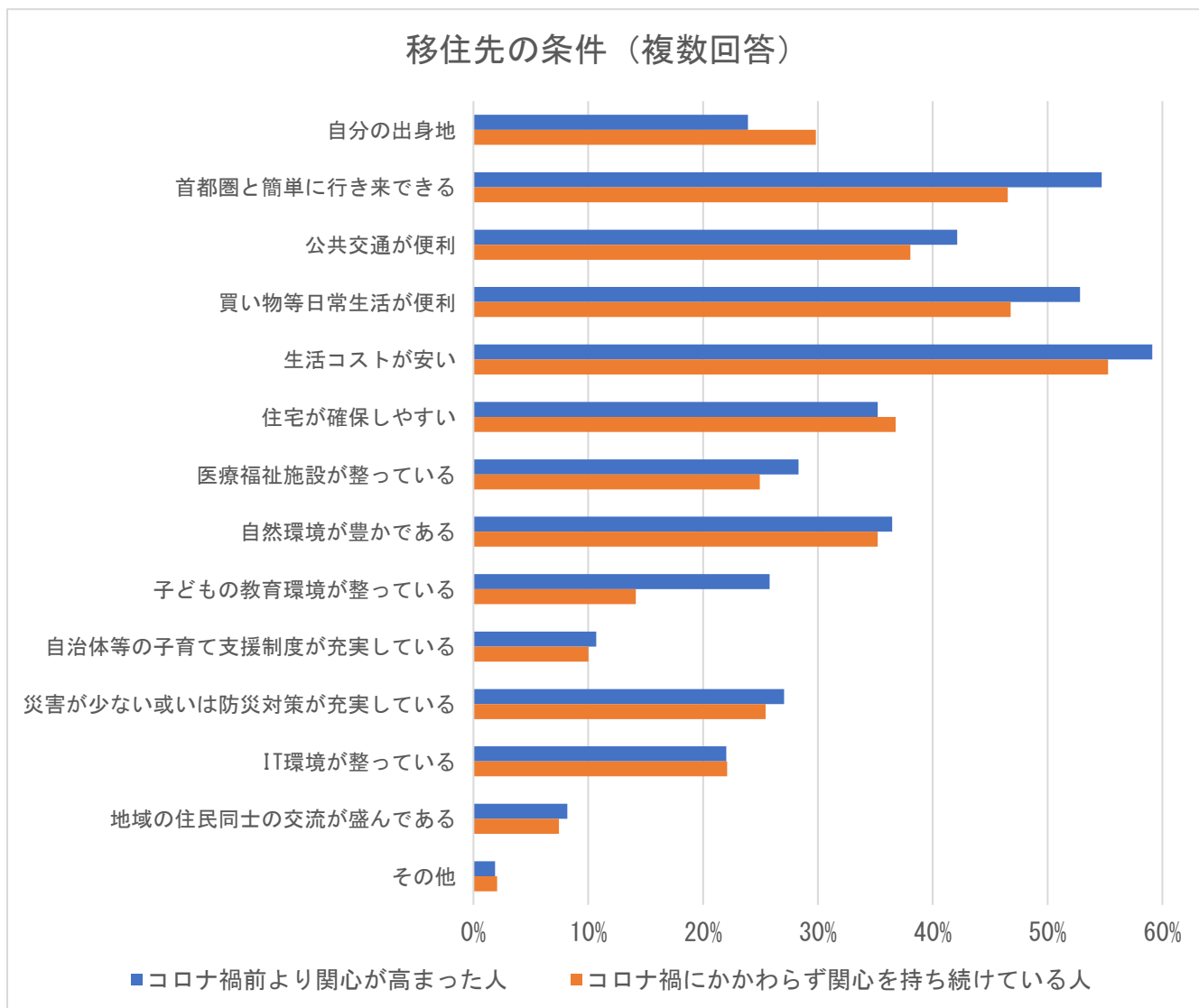


(2) 移住先の条件

「地方移住（二拠点居住を含む）するとした場合の移住先の条件」のうち、重視する条件の1位に挙げられたものをみると、コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人は、「首都圏と簡単に行き来できる」（20.1%）が最も多く、「買い物等日常生活が便利」（18.9%）、「自分の出身地」（15.7%）が続いたのに対し、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人では、同じく「首都圏と簡単に行き来できる」（19.8%）が最多、次いで「自分の出身地」（19.0%）、「生活コストが安い」（14.7%）が多かった。



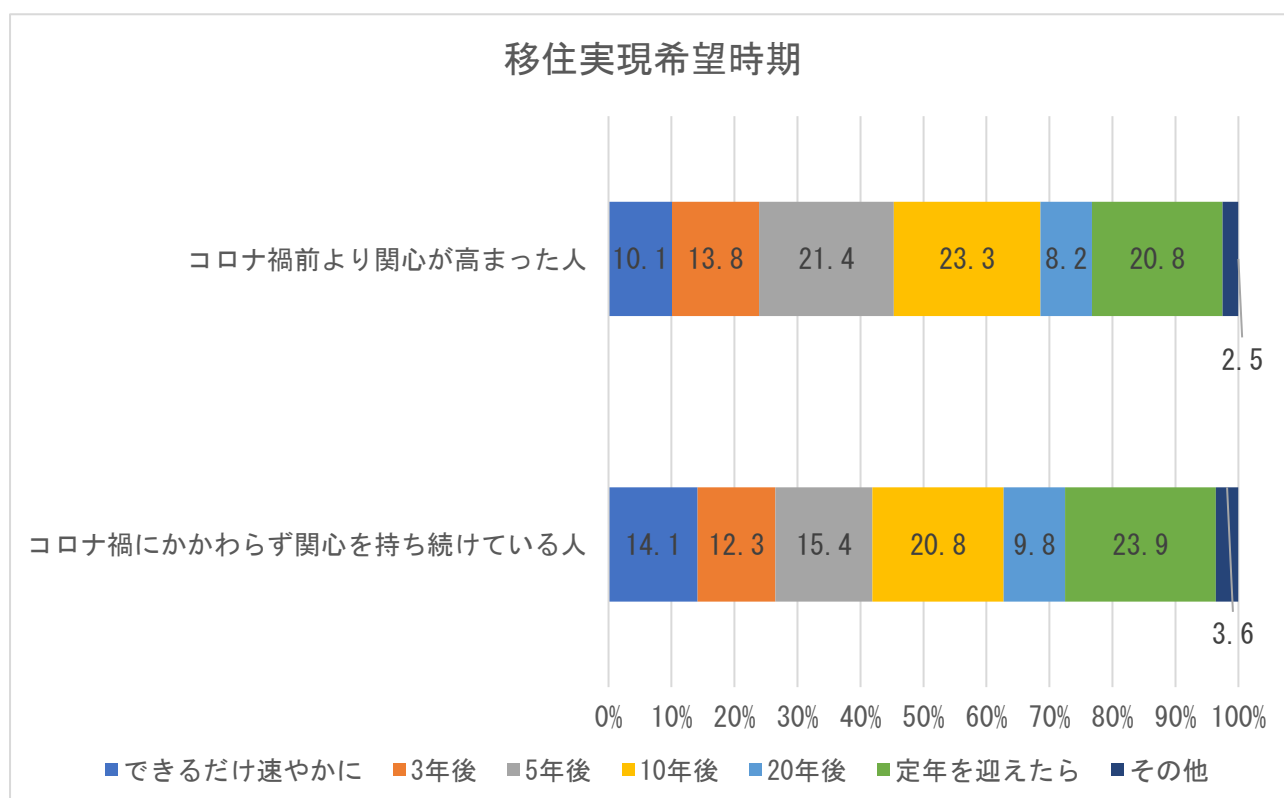
「地方移住（二拠点居住を含む）するとした場合の移住先の条件」として、重視する条件の複数回答では、コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人では、「生活コストが安い」（59.1%）が最も多く、次いで「首都圏と簡単に行き来できる」（54.7%）、「買い物等日常生活が便利」（52.8%）が続いたのに対し、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人では、「生活コストが安い」（55.3%）が同じく最多、「買い物等日常生活が便利」（46.8%）「首都圏と簡単に行き来できる」（46.5%）が続いた。



(3) 地方移住の実現希望時期

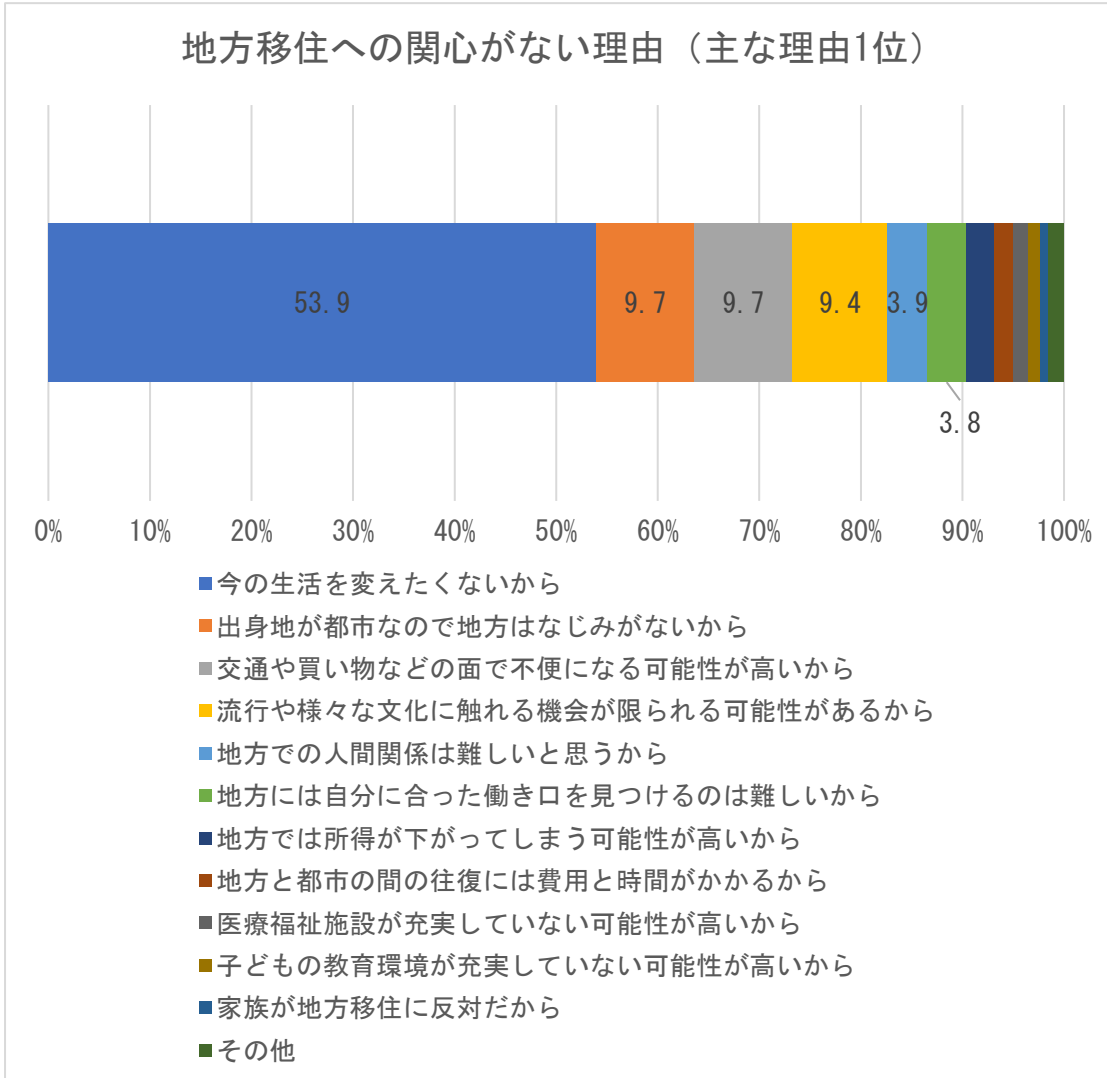
「希望する地方移住（二拠点居住を含む）を実現するとしたら、いつ頃実現したいと思っていますか」との問いに対し、コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人は、「10年後」（23.3%）が最多で、次いで「5年後」（21.4%）、「定年を迎えたら」（20.8%）が多かったのに対し、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人では、「定年を迎えたら」（23.9%）が最多で、次いで「10年後」（20.8%）、「5年後」（15.4%）が多かった。

「できるだけ速やかに」移住を実現したいと思っている人の割合は、コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人（10.1%）よりもコロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人（14.1%）の方が多かったが、5年後までに地方移住を実現したいと思っている人の割合は、コロナ禍前より地方移住への関心が高まった人（45.3%）の方がコロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人（41.8%）よりも多かった。

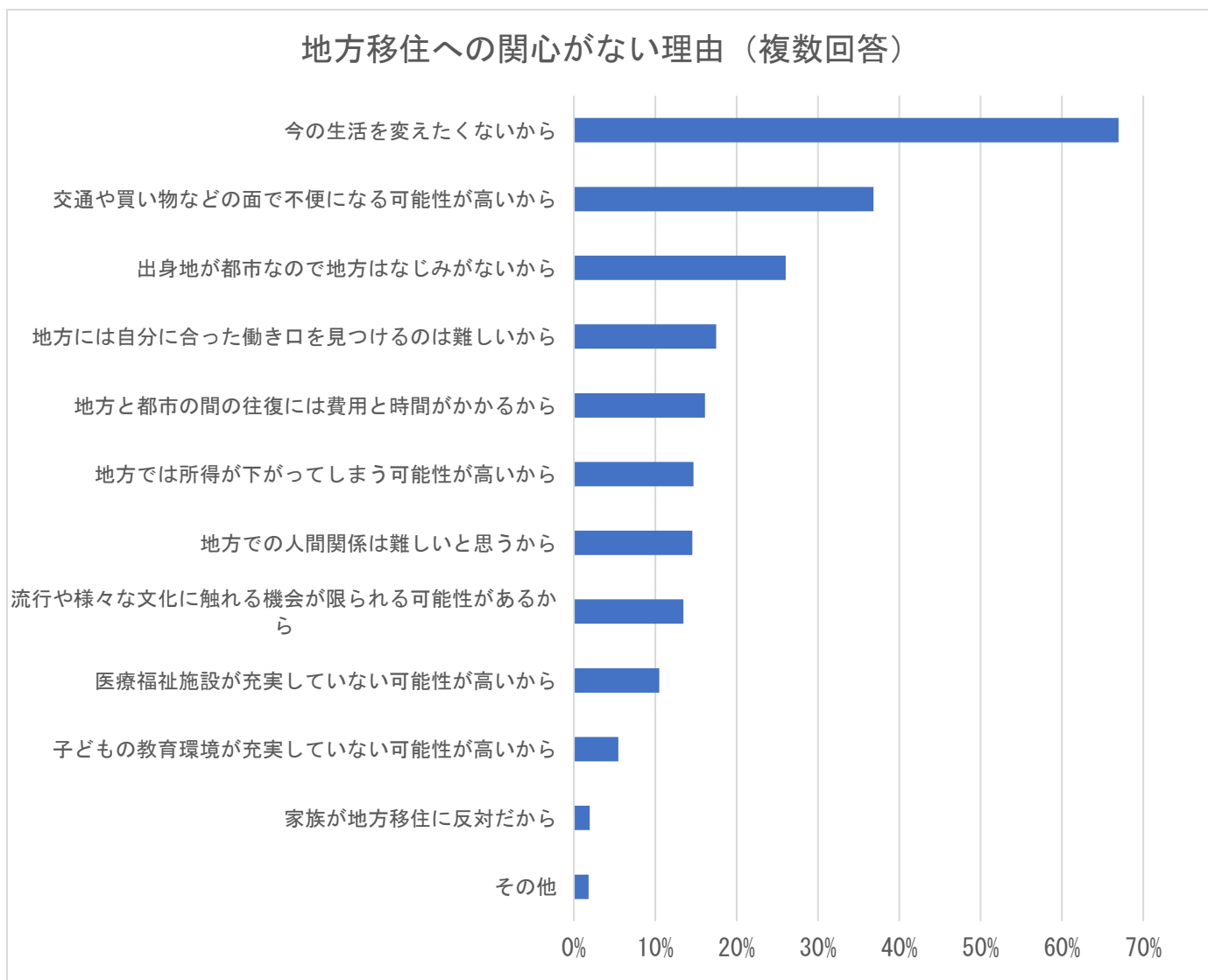


3. 地方移住への関心がない理由

「地方移住への関心がない理由」のうち、主な理由の1位に挙げられたものをみると、「今の生活を変えたくないから」(53.8%)が圧倒的に多く、次いで「出身地が都市なので地方はなじみがないから」(9.7%)、「交通や買い物などの面で不便になる可能性が高いから」(9.7%)、「流行や様々な文化に触れる機会が限られる可能性があるから」(9.4%)が続いた。



「地方移住への関心がない理由」についての複数回答では、「今の生活を変えたくないから」(66.9%)がやはり圧倒的に多く、次いで「交通や買い物などの面で不便になる可能性が高いから」(36.8%)、「出身地が都市なので地方はなじみがないから」(26.1%)が多かった。



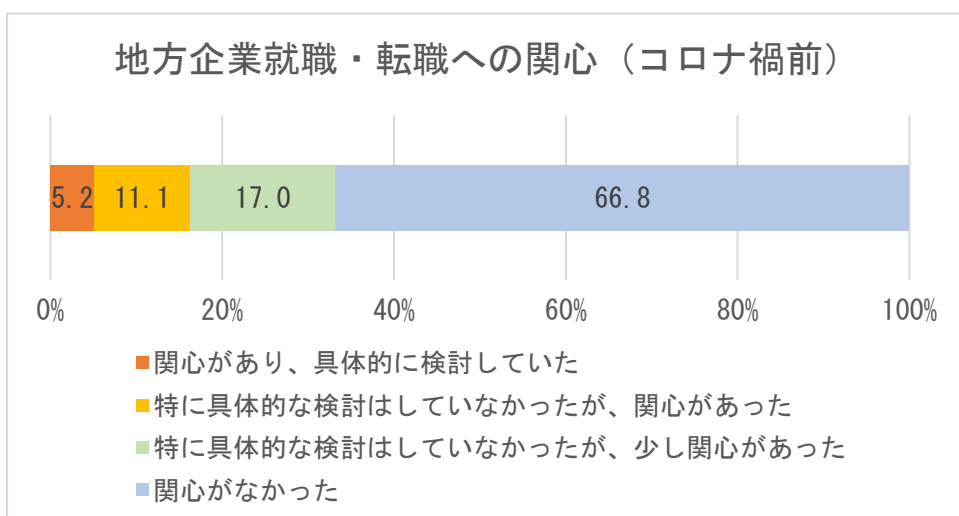
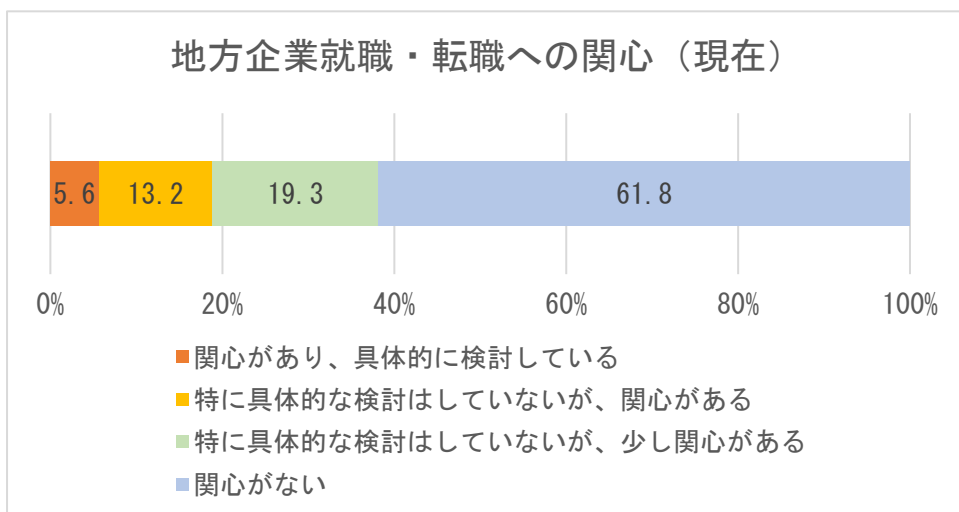
4. コロナ禍による地方企業就職・転職への関心の変化

(1) 現在とコロナ禍前の地方企業就職・転職への関心

東京都に住む人に「あなたは、地方の企業への就職・転職に関心がありますか」と聞いたところ、「関心があり、具体的に検討している」が5.6%、「特に具体的な検討はしていないが、関心がある」が13.2%、「特に具体的な検討はしていないが、少し関心がある」が19.3%、「関心がない」が61.8%となった。

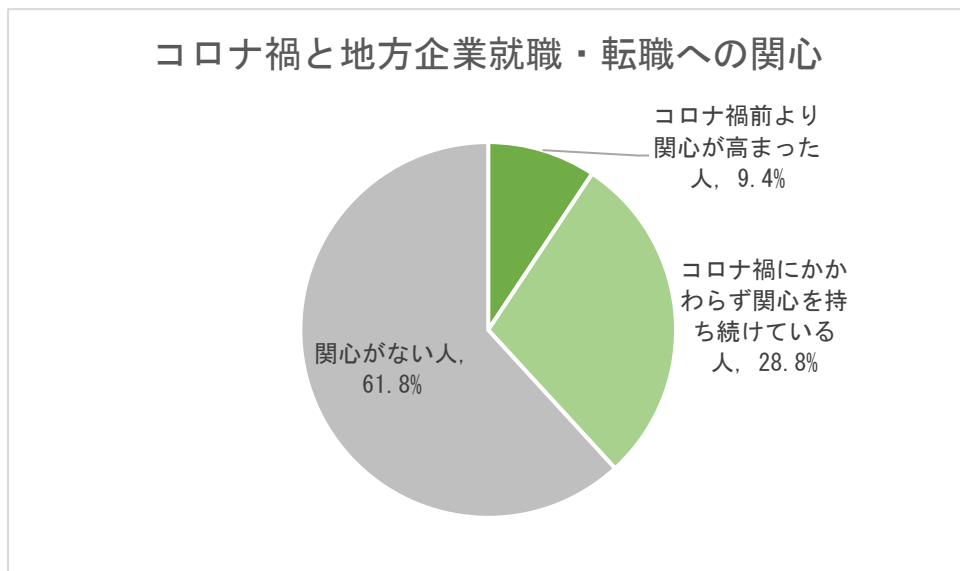
「新型コロナウイルス感染症拡大前のあなたの地方の企業への就職・転職への関心はどうでしたか」との問いに対しては、「関心があり、具体的に検討していた」が5.2%、「特に具体的な検討はしていなかったが、関心があった」が11.1%、「特に具体的な検討はしていなかったが、少し関心があった」が17.0%、「関心がない」が66.8%となった。

コロナ禍の前と現在を比べると、地方企業就職・転職への関心がある割合（「関心があり、具体的に検討している」、「特に具体的な検討はしていないが、関心がある」、「特に具体的な検討はしていないが、少し関心がある」の割合の和）は、33.3%から38.1%に4.8%ポイント増加している。



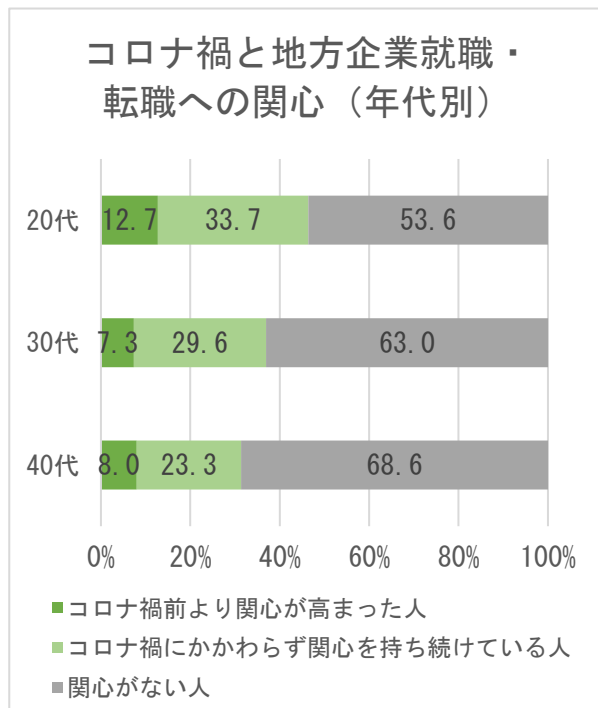
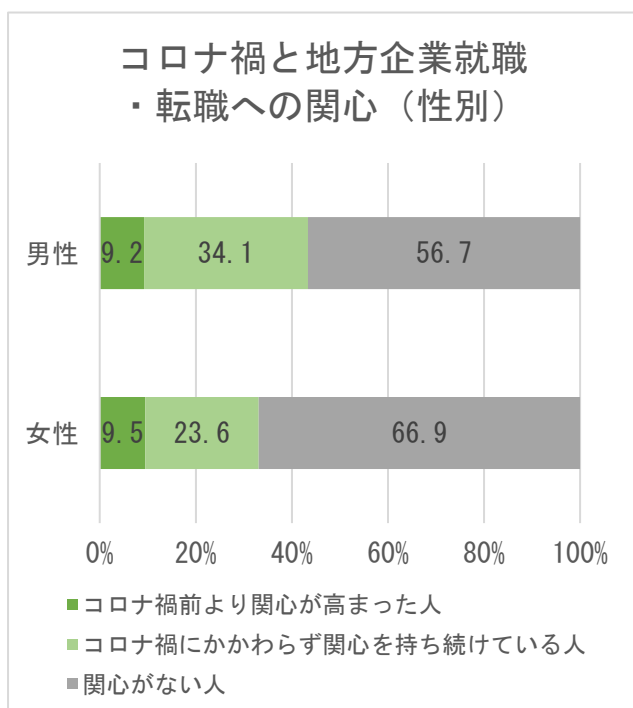
(2) コロナ禍と地方企業就職・転職への関心

コロナ禍前に比べ、地方企業への就職・転職に対する関心の度合いが高まった人（例えば、コロナ禍前は「特に具体的な検討はしてなかったが、関心があった」が、現在は「関心があり、具体的に検討している」になった人）の割合は9.4%、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人は28.8%、地方企業就職・転職に関心がない人は61.8%であった。



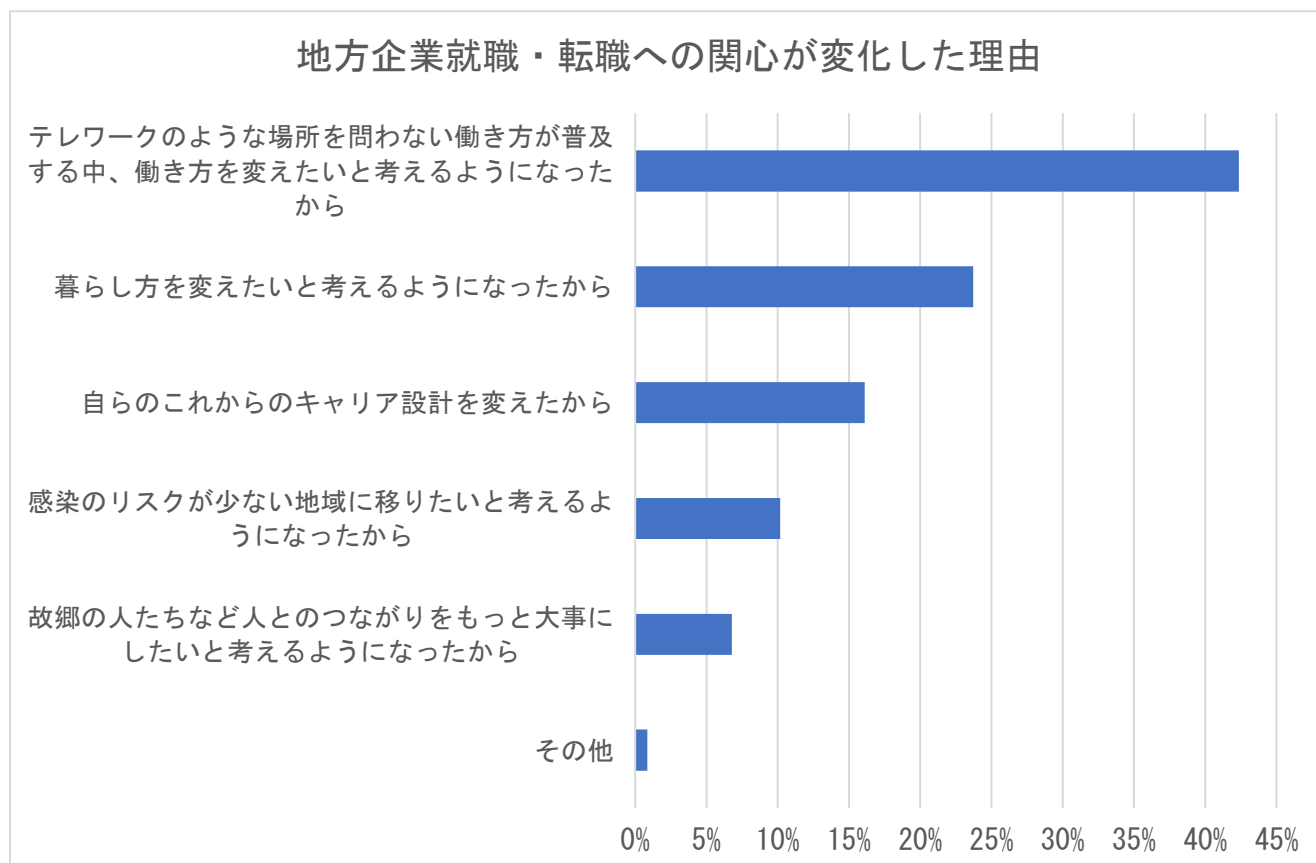
男女別の傾向をみると、コロナ禍前に比べ、地方企業への就職・転職に対する関心の度合いが高まった人の割合は、女性（9.5%）の方が男性（9.2%）より若干多かったのに対し、コロナ禍にかかわらず地方企業への就職・転職に関心を持ち続けている人の割合は男性（34.1%）の方が女性（23.6%）より多かった。

年代別の傾向をみると、コロナ禍前に比べ、地方企業への就職・転職に対する関心の度合いが高まった人の割合は、20代（12.7%）が、30代（7.3%）や40代（8.0%）に比べ多かった。



(3) コロナ禍前より地方企業就職・転職への関心が高まった理由

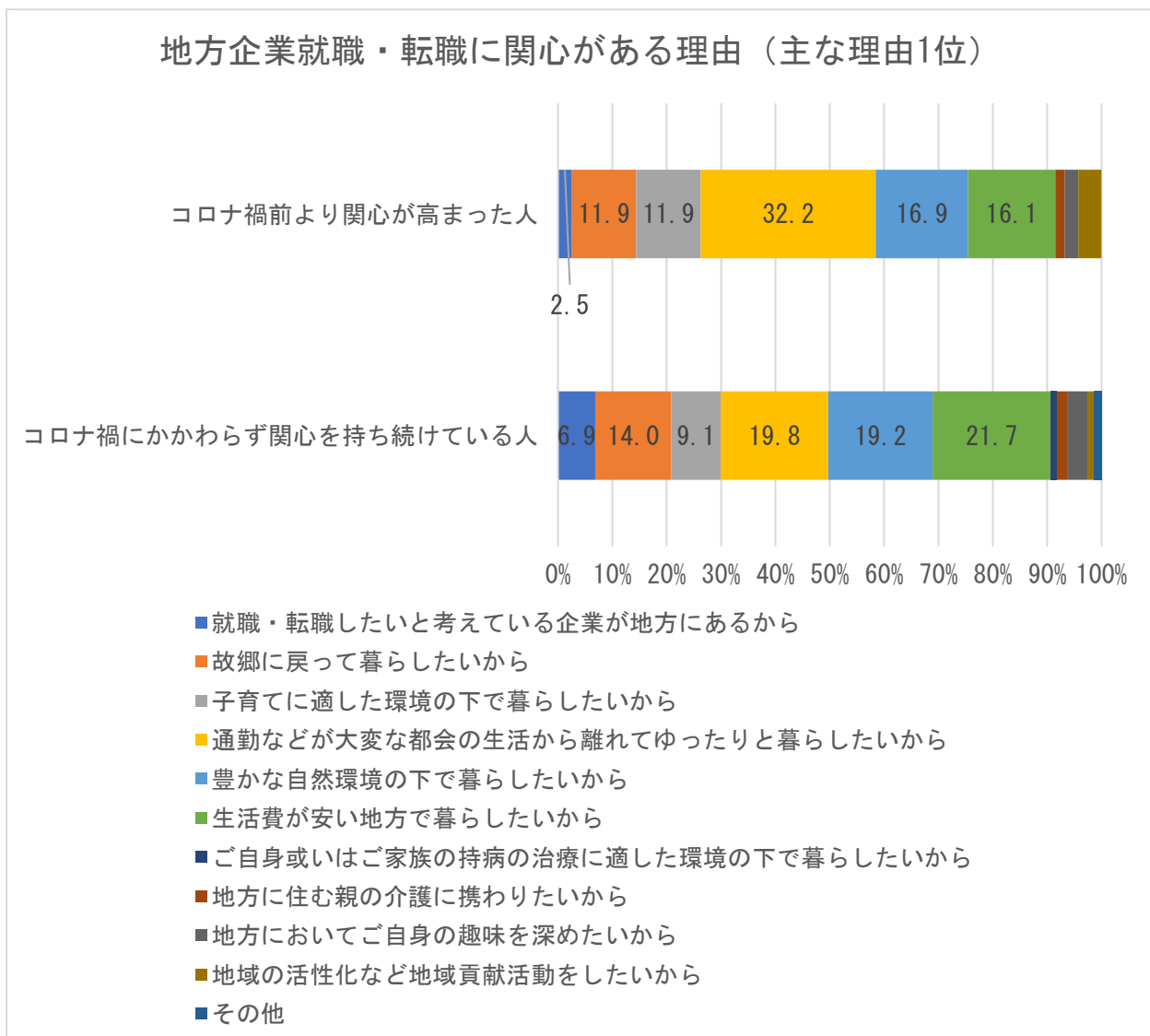
コロナ禍前より地方企業就職・転職への関心が高まった人の関心が高まった理由をみると、「テレワークのような場所を問わない働き方が普及する中、働き方を変えたいと考えるようになったから」が42.4%、「暮らし方を変えたいと考えるようになったから」が23.7%、「自らのこれからのキャリア設計を変えたから」16.1%、「感染のリスクが少ない地域に移りたいと考えるようになったから」10.2%、「故郷の人たちなど人とのつながりをもっと大事にしたいと考えるようになったから」が6.8%となった。



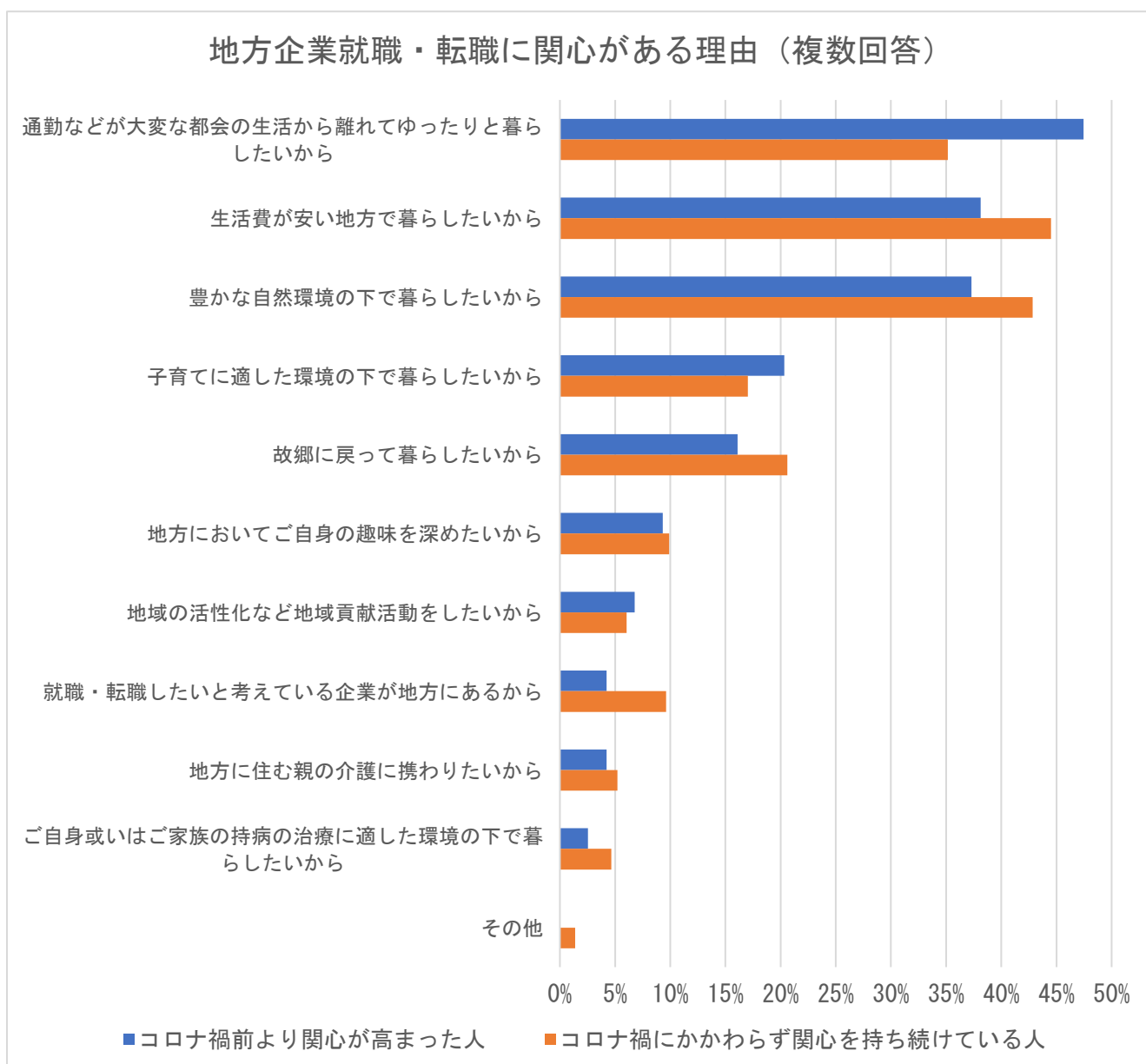
5. 地方企業就職・転職に関心がある理由・就職・転職先の条件・就職・転職実現希望時期

(1) 地方企業就職・転職に関心がある理由

「地方の企業への就職・転職に関心がある理由」のうち、主な理由の1位に挙げられたものを見ると、コロナ禍前より地方企業就職・転職への関心が高まった人は、「通勤などが大変な都会の生活から離れてゆったりと暮らしたいから」(32.2%)が他に比べ多く、「豊かな自然環境の下で暮らしたいから」(16.9%)、「生活費が安い地方で暮らしたいから」(16.1%)が続いた。それに対し、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人は、「生活費が安い地方で暮らしたいから」(21.7%)、「通勤などが大変な都会の生活から離れてゆったりと暮らしたいから」(19.8%)、「豊かな自然環境の下で暮らしたいから」(19.2%)の3つ理由を挙げる人が約5分の1ずつとなった。



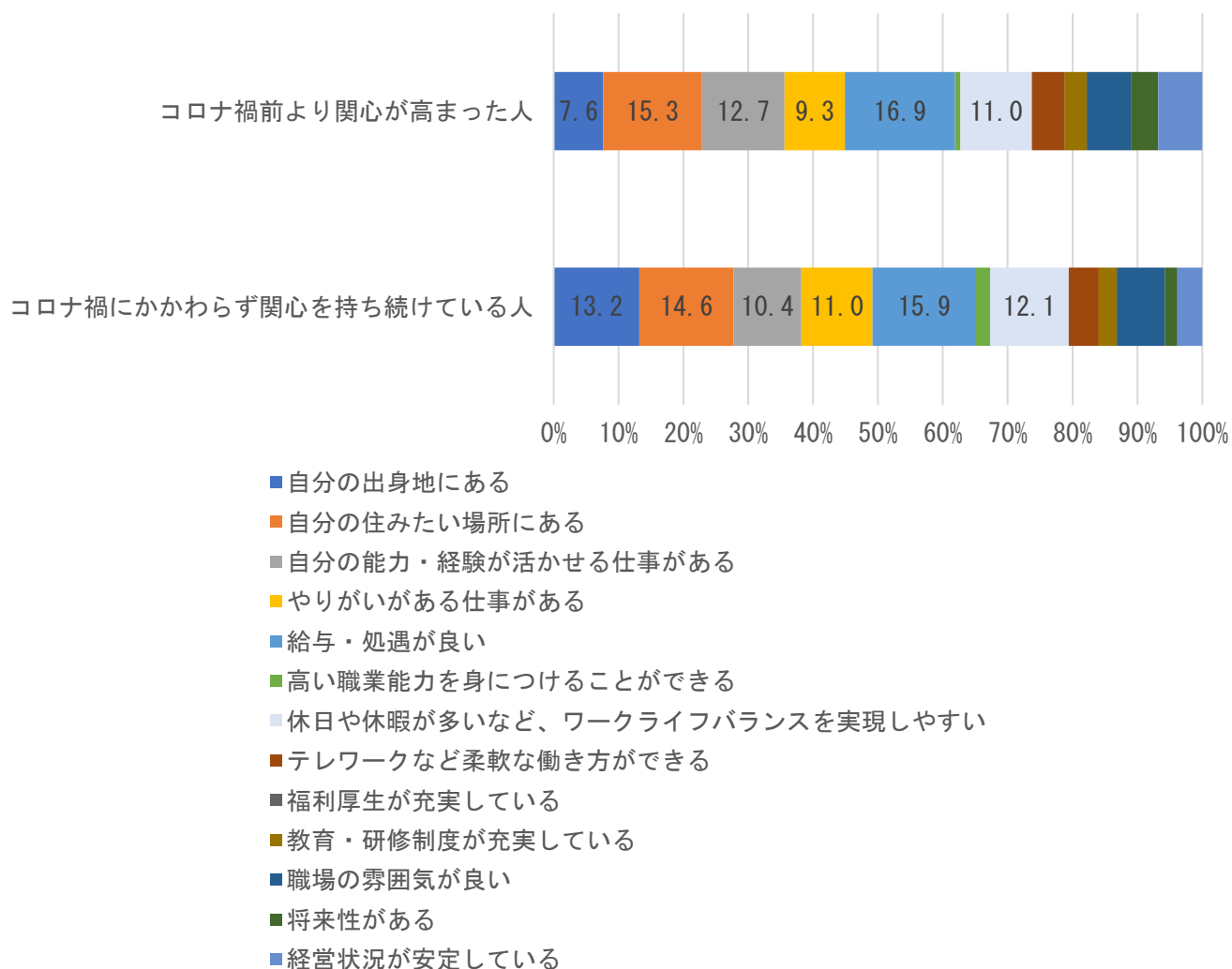
「地方の企業への就職・転職に関心がある理由」に対する複数回答では、コロナ禍前より地方企業就職・転職への関心が高まった人では、「通勤などが大変な都会の生活から離れてゆったりと暮らしたいから」(47.5%)が最も多く、次いで「生活費が安い地方で暮らしたいから」(38.1%)、「豊かな自然環境の下で暮らしたいから」(37.3%)が続いたのに対し、コロナ禍にかかわらず地方の企業への就職・転職に関心を持ち続けている人では、「生活費が安い地方で暮らしたいから」(44.5%)が最も多く、次いで「豊かな自然環境の下で暮らしたいから」(42.9%)、「通勤などが大変な都会の生活から離れてゆったりと暮らしたいから」(35.2%)が続いた。



(2) 就職・転職先の条件

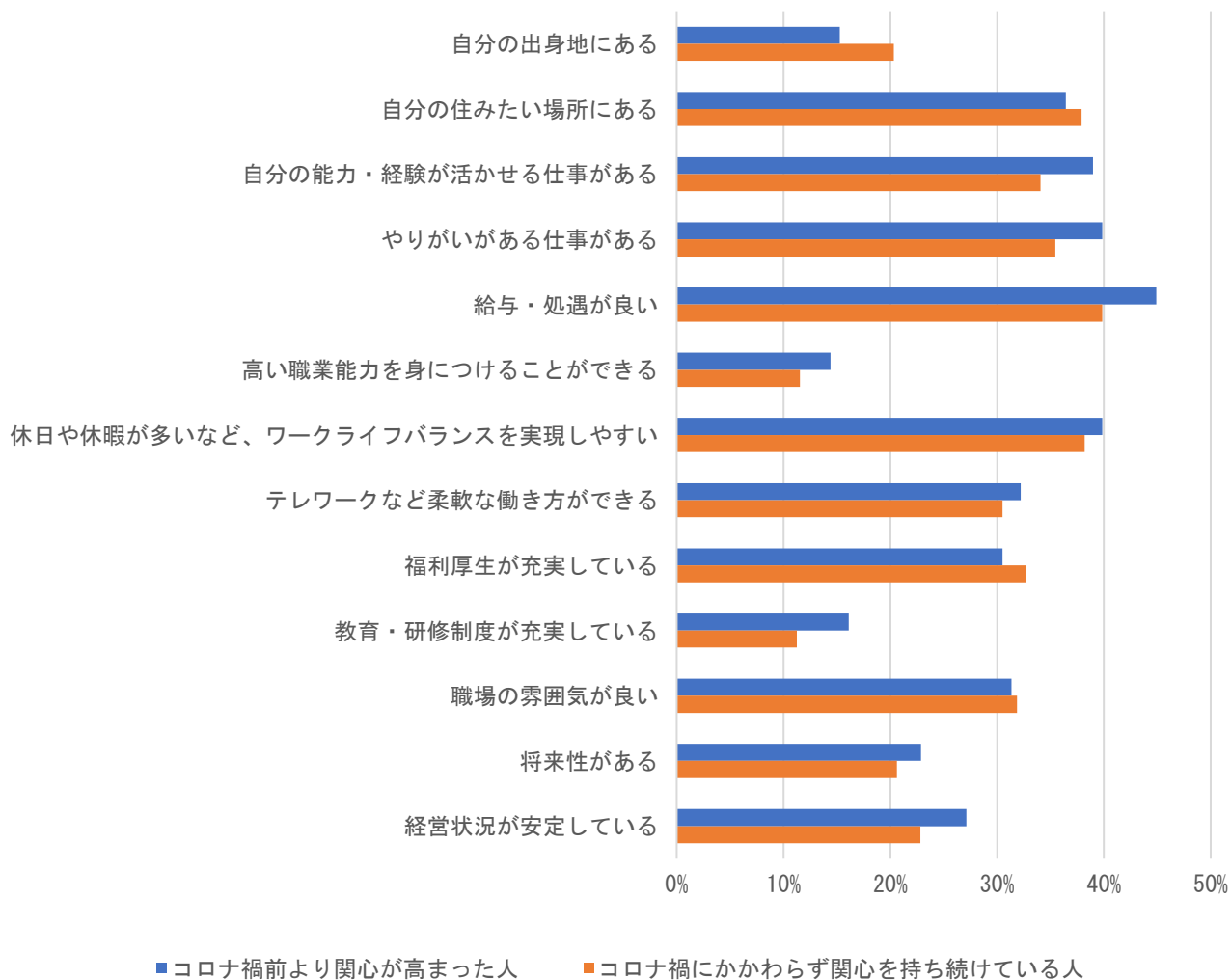
「地方の企業に就職・転職するとした場合の就職・転職先の企業の条件」のうち、重視する条件の1位に挙げられたものをみると、コロナ禍前より地方企業就職・転職への関心が高まった人は、「給与・処遇が良い」(16.9%)が最も多く、「自分の住みたい場所にある」(15.3%)、「自分の能力・経験を活かせる仕事がある」(12.7%)が続いたのに対し、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人では、同じく「給与・処遇が良い」(15.9%)、「自分の住みたい場所にある」(14.6%)が多かったが、次いで多かったのは、「自分の出身地にある」(13.2%)であった。

地方企業就職・転職先条件（重視する条件1位）



「地方の企業に就職・転職するとした場合の就職・転職先の企業の条件」として、重視する条件の複数回答では、コロナ禍前より地方企業就職・転職への関心が高まった人では、「給与・処遇が良い」(44.9%)が最も多く、「やりがいがある仕事がある」(39.8%)、「休日や休暇が多いなど、ワークライフバランスを実現しやすい」(39.8%)、「自分の能力・経験を活かせる仕事がある」(39.0%)が続いた。それに対し、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人では、「給与・処遇が良い」(39.8%)が最多、「休日や休暇が多いなど、ワークライフバランスを実現しやすい」(38.2%)、「自分の住みたい場所にある」(37.9%)が続いた。

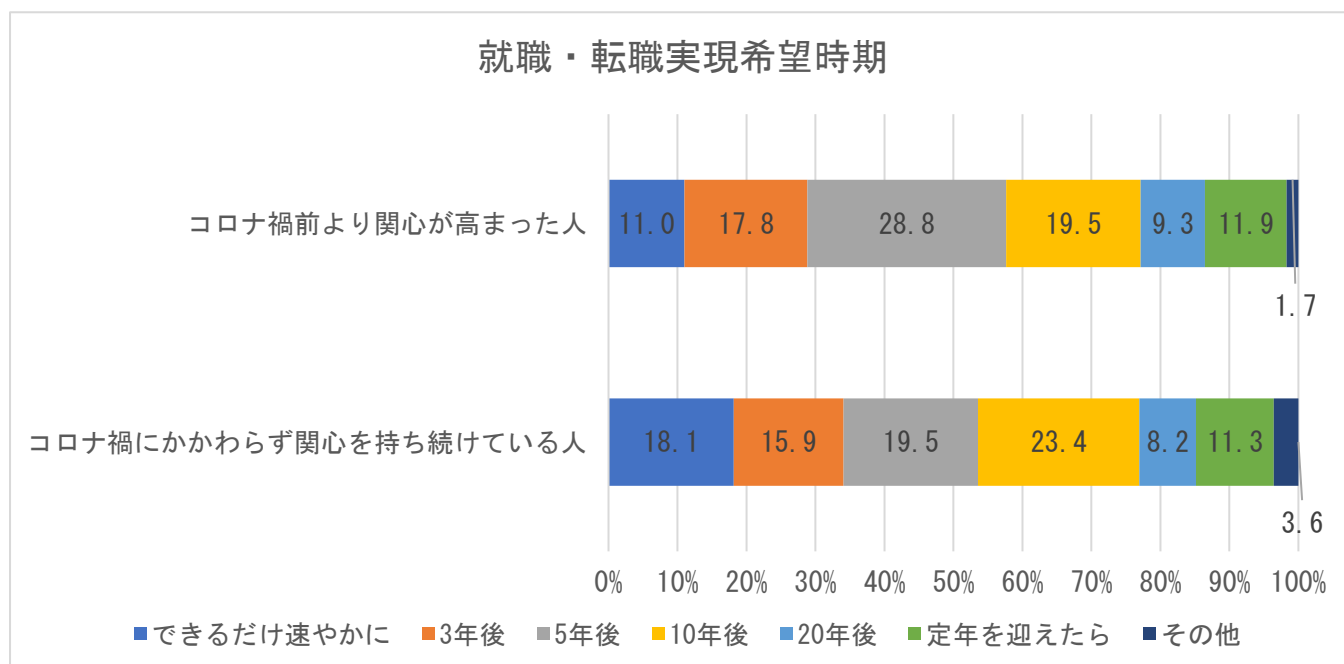
地方企業就職・転職先条件（複数回答）



(3) 地方企業就職・転職の実現希望時期

「希望する地方企業への就職・転職を実現するとしたら、いつ頃実現したいと思っていますか」との問いに対し、コロナ禍前より地方企業就職・転職への関心が高まった人は、「5年後」(28.8%)が最多で、次いで「10年後」(19.5%)、「3年後」(17.8%)が多かったのに対し、コロナ禍にかかわらず地方企業の就職・転職に関心を持ち続けている人では、「10年後」(23.4%)が最多で、次いで「5年後」(19.5%)、「できるだけ速やかに」(18.1%)が多かった。

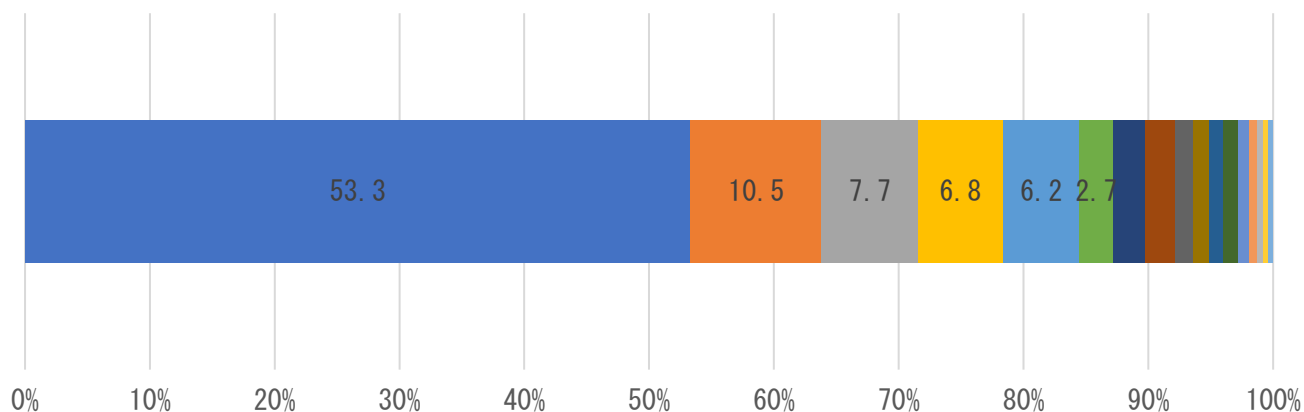
「できるだけ速やかに」移住を実現したいと思っている人の割合は、コロナ禍前より関心が高まった人(11.0%)よりコロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人(18.1%)の方が多かったが、5年後までに地方企業への就職・転職を実現したいと思っている人の割合は、コロナ禍前より関心が高まった人(57.6%)の方がコロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人(53.5%)よりも多かった。



6. 地方企業就職・転職への関心がない理由

「地方企業就職・転職への関心がない理由」のうち、主な理由の1位に挙げられたものをみると、「今の生活を変えたくないから」(53.3%)が圧倒的に多く、次いで「今の仕事を変えたくないから」(10.5%)、「出身地が都市なので地方はなじみがないから」(7.7%)が多かった。

地方企業就職・転職への関心がない理由（主な理由1位）



- 今の生活を変えたくないから
- 今の仕事を変えたくないから
- 出身地が都市なので地方はなじみがないから
- 給与や処遇が良い企業を地方で見つけるのは難しいから
- 家族が地方の企業への就職・転職に反対だから
- 自分にとってやりがいがある仕事ができる企業を地方で見つけるのは難しいから
- 経営状況が安定している企業を地方で見つけるのは難しいから
- 自分の能力・経験を活かせる企業を地方で見つけるのは難しいから
- テレワークなど柔軟な働き方ができる企業を地方で見つけるのは難しいから
- 将来性がある企業を地方で見つけるのは難しいから
- 休日や休暇が多いなど、ワークライフバランスを実現しやすい企業を地方で見つけるのは難しいから
- その他
- 福利厚生が充実している企業を地方で見つけるのは難しいから
- 高い職業能力を身につけることができる企業を地方で見つけるのは難しいから
- 職場の雰囲気が良い企業を地方で見つけるのは難しいから
- 地方では企業で働くのではなく、起業或いは就農したいと考えているから
- 教育・研修制度が充実している企業を地方で見つけるのは難しいから

「地方企業就職・転職への関心がない理由」についての複数回答では、「今の生活を変えたくないから」(64.7%)がやはり圧倒的に多く、次いで「今の仕事を変えたくないから」(28.2%)、「給与や処遇が良い企業を地方で見つけるのは難しいから」(20.6%)が多かった。

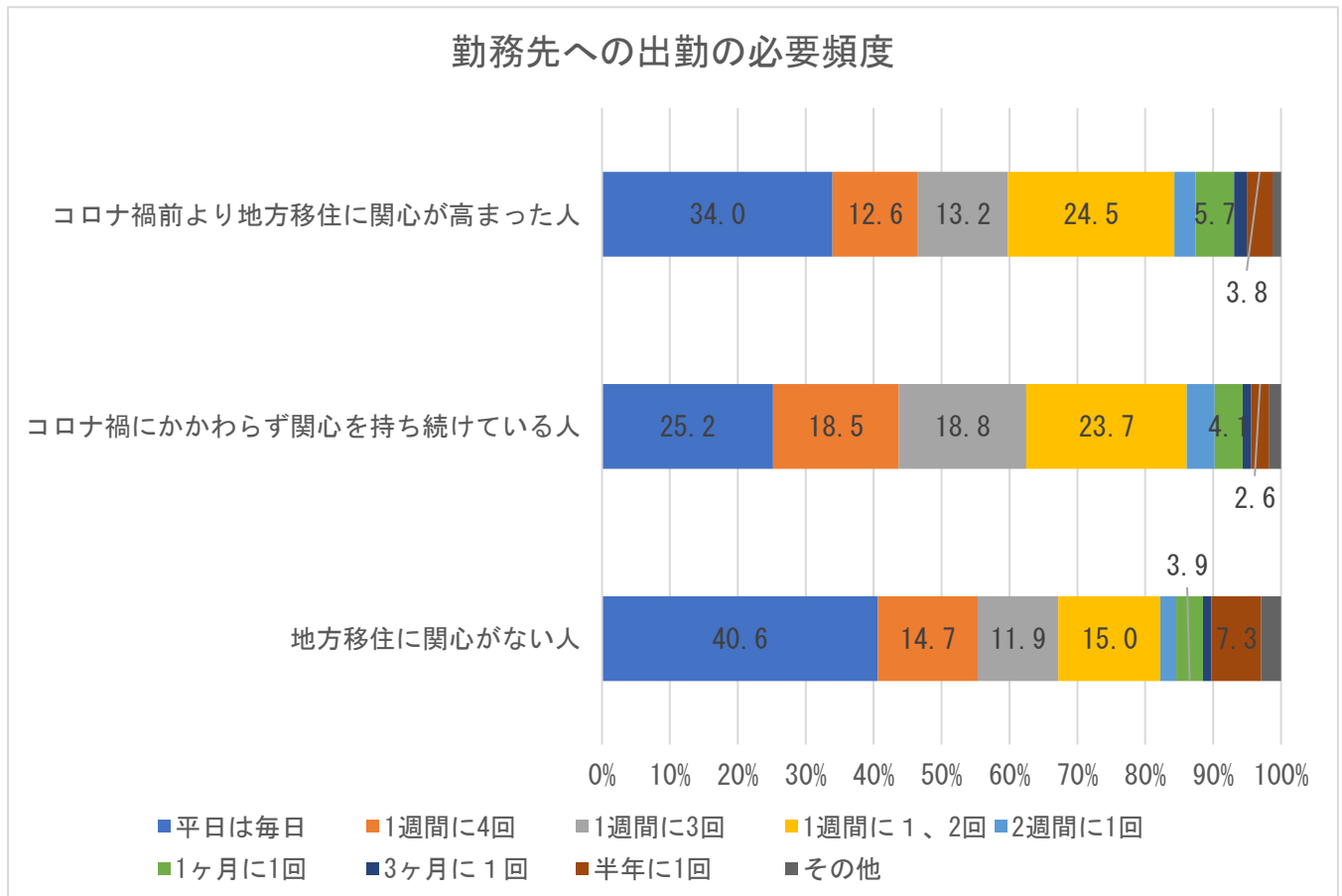
地方企業就職・転職に関心がない理由（複数回答）



7. 勤務先への出勤の必要頻度、地方訪問や地方での経験

(1) 勤務先への出勤の必要頻度

「勤務先には どのくらいの頻度で出勤する必要があると考えますか」と訊ねたところ、コロナ禍前より地方移住に関心が高まった人、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人、地方移住に関心がない人いずれも、「平日は毎日」(各 34.0%、25.2%、40.6%) が最多で、次いで「1週間に1、2回」(各 24.5%、23.7%、15.0%) が続いた。しかし、「平日は毎日」と回答した割合は、地方移住に関心がない人 (40.5%) とコロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人 (25.2%) では、大きな差があった。



(2) 地方訪問や地方での経験

「地方訪問や地方での経験」について訊ねたところ、コロナ禍前より地方移住に関心が高まった人とコロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人は、地方移住に関心がない人に比べ、地方訪問の機会や地方での経験が豊富であった。具体的には、「地方訪問や地方での経験」に関する各設問についてのコロナ禍前より地方移住に関心が高まった人、コロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人、地方移住に関心がない人の回答割合は、「地方に毎年何回か帰省する」（各 29.6%、32.6%、17.9%）、「地方に毎年何回か出張する」（各 17.6%、16.7%、6.3%）、「地方に毎年何回か観光旅行に行く」（各 29.6%、32.1%、13.7%）、「出身地が地方である」（各 24.5%、28.3%、15.7%）、「地方の大学や専門学校に通った」（各 10.7%、7.7%、5.9%）、「地方に転勤したことがある」（各 3.8%、5.4%、3.8%）となった。逆に、地方訪問の機会や地方での経験について「あてはまるものはない」との回答の割合は、地方移住に関心がない人（61.3%）がコロナ禍前より地方移住に関心が高まった人（30.8%）とコロナ禍にかかわらず関心を持ち続けている人（30.3%）の約2倍となった。

